

演出家の大石泰さんにお話をお聞きしました！

大石 泰（東京芸術大学名誉教授）

・今年のお話と見どころを教えてください。

今年の「カニオとサルエット」は、シェイクスピアの「ロミオとジュリエット」がベースです。モンタギュー家とキャピュレット家の対立を蟹族と猿族の対立に置き換え、その対立が昔ばなしの「さるかに合戦」に端を発しているという設定です。原作は悲劇ですが、カニオとサルエットの恋の行方はどうなるのか、注目してください。シェイクスピアの「ロミオとジュリエット」から、沢山のオペラやバレエ、さらにはミュージカルまで生まれました。今回はプロコフィエフのバレエ音楽《ロメオとジュリエット》をメインに、《パプリカ》や松田聖子さんの名曲《瑠璃色の地球》など、バラエティあふれる曲を取り上げます。

・プロコフィエフが「ロミオとジュリエット」を題材に作曲したバレエ音楽が沢山登場しますが、プロコフィエフってどんな作曲家ですか？

プロコフィエフはモダニストで、初期の作品は前衛的な響きに満ちています。しかしロシア革命の勃発で、自由な作曲の空気が失われたことを感じた彼は、アメリカへの亡命を決意します。その後ソビエトへ復帰し、作品も社会主義リアリズムに沿った平易なものに変わっていきます。バレエ「ロメオとジュリエット」（1936）は過渡期の作品ですが、斬新な響きと抒情性のバランスが取れています。私は情景描写に長けていて、明確な輪郭を持つプロコフィエフの音楽が好きです。

・小さなお子さんから大人の方まで、一緒に楽しめるポイントは？

小さいお子さんでも大人でも、そして音楽に詳しい人もそうでない人も、誰でも楽しめるように工夫されているのがこのコンサートです。初めてオーケストラに触れる小さな子どもたちは、なによりもまずその響きに心を奪われることでしょう。ストーリーを理解できる小中学生は、次はどうなるかハラハラドキドキしながら、舞台を楽しむことができます。そして音楽に詳しい大人の方たちは、ストーリーの展開と選曲に注目しながら聴いていただくと、「ここでこの音楽が来るか」と一味違った楽しみ方ができると思います。

・クラシック音楽に敷居の高さを感じるという方へメッセージをお願いします。

「クラシック音楽は難しい、堅苦しい」と感じている方が、いらっしゃるかもしれません。確かに身じろぎ一つせず、2時間のコンサートを聴き続けるのはしんどいことかもしれません。しかしクラシック音楽に出会える場は、それだけではありません。もっと気軽にクラシック音楽に触れられる機会はいろいろあり、約1時間で終了する「芸大とあそぼう in 北とぴあ」もまさにその一つです。